

スポーツ史 学会だより

第135号

2019年12月17日発行

スポーツ史学会事務局

〒174-0053 東京都板橋区清水町92-1

東洋大学総合スポーツセンター

谷釜研究室内

TEL : 03-6454-3182

E-mail : tanigama@toyo.jp

<http://sportshistory.sakura.ne.jp/>

I. 事務局報告

1. 会況報告(2019年11月28日現在)

1) 会員総数223名、1機関

(正会員202名、学生会員21名、賛助会員1機関)

2) 会費納入状況

2019年度納入者数 152名

2018年度納入者数 201名

2017年度納入者数 201名

2016年度納入者数 210名

3) 今年度会費収入総額 1,281,000円

2. 会費納入のお願い

今年度会費(正会員8,000円、学生会員5,000円、賛助会員一口10,000円以上)の納入はお済みでしょうか。未納の会員は下記まで納付をお願いいたします。

会則第9条により、3年を越えて会費を未納の場合には、会員資格を喪失することになります。また、2年間会費未納の場合には一部会員サービスを停止させていただきます。なお、会費納入状況等についてのご質問がある場合は、事務局までお問い合わせください。

郵便振替口座 : 00940-7-282457

加入者名 : スポーツ史学会

3. スポーツ史学会第33回大会の開催

本年度の学会大会は12月7日(土)～8日(日)に、中央大学多摩キャンパスを会場に開催されました。

第1日目には4題の一般発表があり、続いて講演会

「近代オリンピック大会史におけるドイツと日本の役割」が開催されました。市場俊之会員の司会のもと、ミハエル・クリューガー氏(ドイツ連邦共和国・ミュンスター大学教授)による講演が行われました。その後、会場を移して行われた情報交換会とともに、盛況のうちに終了しました。

第2日目は、8題の一般発表がありました。終了後、総会が開催されました。

4. 令和元年度総会について

総会に先立ち、スポーツ史学会学会賞の報告が行われました。

市場学会賞選考委員長より、選考結果について説明があり、令和元年度のスポーツ史学会学会賞は該当なし、奨励賞に星野映会員の「第二次世界大戦後のフランスにおける柔道をめぐる対立とその展開―国内と国外の相互関連に着目して―」(『スポーツ史研究』第31号(平成30年3月31日発行))が選ばれたことが報告されました。

(受賞者欠席につき、賞状と記念品は郵送)

1. 会長挨拶

2. 議長選出

松井良明会員が議長に選出されました。

3. 報告事項

1) 会況報告

事務局より、2019年9月30日現在の会況が報告されました。

2) 令和元(2019)年度 事業・会計中間報告

総会配布資料に基づいて、事務局より今年度の事業・会計中間報告が行われました。

3) 編集委員会報告

編集委員長より、『スポーツ史研究』第33号を今年度末発刊予定で編集を行っていること、その際、巻末に「会員活動報告」を載せるため、「学会だより」(135号)にその用紙を同封するので、記入の上、返送願いたい旨の報告がありました。

4) 会報『ひすぼ』について

企画担当理事より、今年度は103号から105号を発行予定で現在104号まで発行済みであること、105号は年度内に発行予定の旨、報告がありました。

5) 次期学会大会について

企画担当理事より、第34回大会は理事会で協議の結果、龍谷大学大宮学舎(佐々木浩雄会員)での開催に決定したこと、会期は2020年12月5日(土)～6日(日)を予定している旨、報告がありました。

6) その他

(1) ISHPES 2020 Sapporo について

事務局より、次年度の学会の事業(共催)であるISHPES 2020 Sapporo について、スポーツ史学会として科学研究費補助金(「研究成果公開促進費」)を2019年および2020年にわたって獲得している旨の報告がありました。また、実行委員の池田会員より進捗状況と大会参加の呼びかけがあり、続いて実行委員の瀧元会員より、配布資料に基づいてオーブニングイベントに関する案内がありました。

(2) 『スポーツ史研究』第32号について

理事長より、当該号の発行にあたって題目の誤りと原稿区分の記載漏れがあったこと(学会HPおよび学会だより(133号)に「お詫びと訂正」として報告済)、また、全会員に修正用シールを発送済であることが報告されました。今後は、再発防止に向けてチェックリストを作成し、これに基づいて編集委員会および事務局で入念なチェック体制を組んで編集にあたる旨、説明がありました。

4. 審議事項

1) 平成30(2018)年度事業・決算報告について

前事務局より、事業報告について総会資料に基づき原案が示され、審議の結果、原案通り承認されま

した。

2) 令和2(2020)年度事業・予算案について

事務局より、令和2(2020)年度の事業計画案、予算書案、学会活動準備金収支予算書案について、総会資料に基づいて説明があり、審議の結果、原案通り承認されました。

3) 『スポーツ史研究』執筆要領の改正について

編集委員長より、総会資料に基づいて説明があり、審議の結果、原案通り承認されました。

4) その他

特になし。

5. 閉会の挨拶

5. 会議の開催

以下の会議が開催されました。

【理事会】

第149回 2019年12月8日 中央大学多摩キャンパス

6. 日本学術会議刊行物

月刊『学術の動向』2019年10～12月号が事務局に届いております。目次のコピーを同封いたしますので、関心をお持ちの方はご連絡ください。

なお、特集記事は<http://www.scj.go.jp>からも閲覧可能です。

7. 「会員活動報告」の連絡について

『スポーツ史研究』第33号の巻末に掲載する「会員活動報告」の用紙を同封しますので、令和元(2019)年の研究活動報告(「修士・博士論文報告」は平成30年度を含む)を記入のうえ、2020年1月31日までに事務局まで提出(メール送信でも構いません)下さいませようお願いいたします。

8. スポーツ史学会学会賞の推薦について

令和2年度スポーツ史学会学会賞の候補論文(著書)の推薦依頼書を同封しますので、ふるってご推薦下さい。学会賞、奨励賞ともに、2名以上の会員の連名で推薦することができます。推薦の際には、応募書式(推薦書式)に沿って作成した推薦書を、2020年2月末日までに事務局までご郵送下さい。

今回は2019年1月1日から12月31日までに刊行された『スポーツ史研究』、その他の学術雑誌の論文および学術的著書が対象となります。著者(ファースト・オナー)が本学会員で、内容がスポーツ史に関連するものに限られます。

9. スポーツ史学会30周年記念誌の献本

2017年度にスポーツ史学会30周年記念誌『スポーツ史研究の未来』が完成し、会員の皆さんにお届けしました。

事務局に若干の余部がございます。所属先の図書館や、図書館以外でも公的機関等に納本して下さるという会員に限り、お分けいたしますので、事務局まで必要部数をご連絡ください。申込受付先着順といたします。

送料は事務局が負担いたします。

10. スポーツ史学会第34回大会について

第34回大会は、以下の通り開催予定です。

期 日： 2020年12月5日(土)～6日(日)

場 所： 龍谷大学 大宮学舎

II. 理事会報告

第149回理事会

第149回理事会が次の通り開催されました。

期 日： 12月8日(日) 12時00分～12時45分

場 所： 中央大学 多摩キャンパス

5号館5階 5503教室

出席者：三井悦子(会長)、松本芳明(理事長)、市場俊之、井上邦子、瀧元誠樹、林 郁子、福井 元、矢野裕介、綿貫慶徳、谷釜尋徳(事務局)、松浪 稔(前事務局)、佐々木浩雄(次期学会大会担当としてオブザーバー参加)

欠席者：なし

議長：松本芳明

1. 議事録確認

1) 第148回理事会議事録案の確認

2. メール審議

- 1) 会員の入会について
- 2) 『スポーツ史研究』執筆要領の改正について
- 3) 学会ホームページでの「ISHPES 2020札幌大会」のアナウンスについて
- 4) 2019年度事業・会計中間報告案および2020年度事業計画・予算案について
- 5) 2019年度 総会次第・資料等について

3. 報告事項

- 1) 会況報告
- 2) 会員の所属変更
- 3) 『スポーツ史研究』第33号の編集進捗状況について
- 4) 『ひすぼ』第105号の編集進捗状況について
- 5) 次期学会大会(第34回)について
- 6) ISHPES 2020札幌大会について
- 7) その他

4. 審議事項

- 1) 2019年度総会の進行について
- 2) 年間計画について
- 3) その他

5. その他

III. 編集委員会報告

1. 『スポーツ史研究』への投稿

現在、2020年3月発行予定の第33号の編集作業を進めています。

『スポーツ史研究』への投稿は随時受け付けております。投稿規程ならびに執筆要領は『スポーツ史研究』の見開き及び学会ホームページに掲載されていますので、投稿前に必ずご確認ください。(執筆要領は一部改正されていますので、ご注意下さい)

投稿先は、次の通りです。

〒630-8528

奈良県奈良市高畑町

奈良教育大学保健体育講座 井上研究室

スポーツ史研究編集委員会 宛

kinoue@nara-edu.ac.jp

2. 『スポーツ史研究』執筆要領の改正について

令和元年度総会におきまして『スポーツ史研究』執筆要領が改正されました。主な変更は下線部の通りです。

「5. 自著の引用に当たっては「拙著」「拙稿」等の表示を避け、投稿者名を特定させるような表現をしない」

IV. 会報『ひすぽ』報告

1. 『ひすぽ』特集テーマの募集について

現在、第107号以降の特集テーマを募集しておりますので、事務局までお寄せください。皆様からの積極的なご提案をお待ちしております。

V. 会員の動向

1. 入会・退会

<入会>

次の方の入会が承認されました。（敬称略）

正会員

工藤 龍太(早稲田大学スポーツ科学学術院)

学生会員

山村 洋子(北海道大学大学院教育学院)

2. 所属変更について

以下の会員から所属変更のご連絡がありました。

（敬称略（ ）内は新所属先）

星野 映(早稲田大学スポーツ科学研究センター)

所属、連絡先住所等に変更があった場合には、必ず事務局までご一報ください。その際、ぜひともメールアドレスをあわせてお知らせ下さい。所属変更、連絡先の変更がないまま住所不明になる会員もいらっしゃいます。

3. 会員資格の喪失と退会について

スポーツ史学会会則第9条に則り、3年間会費未納の方は、会員資格を喪失します。

現在、9名の方が、2017年度以降の年会費未納となっております。2019年度末で会員資格を喪失することになりますので、該当する会員は至急会費の納入をお願いします。

また、会員が本学会を退会する際には、会員であった期間の会費を納入していただいたからの退会承認となります。

大学院を修了し、研究活動を継続せず退会する場合は、退会手続(事務局へご連絡ください)を忘れずにしてください。退会手続が遅れると、次年度の会費が発生します。

学生会員の推薦者となった会員の先生も、この点にご留意いただき、ご指導をお願いいたします。特に留学生の帰国の際に、会員継続の意思がない場合は退会手続を忘れずにお願いいたします。